

私が日本で体験したこと

私が加治木と鹿屋高校の両方に滞在している間、プログラムの始めと最後の日に、各学校の生徒の前でスピーチをすることになりました。どのスピーチも、私の日本語があまり上手でないために、おどおどしながら、とても簡単に話しました。それでも理解される程度にはうまく伝わり、その後いくつかの誉め言葉ももらいましたが、私がスピーチした際に、自分が本当に伝えたかったことを完璧に表現できたならよかったと思います。それは、「自分の母国文化の外に出て、他文化を探求できることへの、非常に大きな感謝と純粋な興奮」でした。しかし、このことが文化交流の最も影響力のある、「コミュニケーションの小さな壁があつたにもかかわらず、意味のある人間関係を築くことができた」という側面を私に理解させました。日本に滞在していた間、たくさんの素晴らしい人々に出会いました。忘れることのない人々、そしていつか必ず再び会うことになる人々です。また、日本の日常生活における習慣や伝統、魅力的な特徴についても多くのことを学びました。私の経験を一枚の紙にまとめるのは難しいですが、ここでその人生を変えるような経験を伝えることができればと思います。

日本の田舎の方で外国人として過ごすことは、私にとって非常に魅力的な経験でした。アメリカは非常に多様な国なので、異なる背景を持つ人々を見ることは、私には特に気になりませんでした。逆に、日本は主に同質的な国です。私の同級生が私に対して好奇心を示すのを見て、とても可愛らしかったです。時々、女の子たちが私の髪を触ったりすることもありました。私の髪は少しテクスチャーがあり、ウェーブがかかっているためです。また、よく「可愛い」と言われましたが、時々それが私の外見によるものなのか、私の行動によるものなのかが分からないこともありました。それでも、「可愛い」という言葉は何度も耳にしました！

身体的な特徴以外にも、彼らはアメリカについて好奇心を示していました。私の学校では何か似たようなことがあつたらうか？大抵の時、その答えは「いいえ」だったでしょう。日本の学校は多くの点で異なります。まず、尊敬の念の違いが非常に大きいです。生徒たちは、指示されるとすぐに静かになり、私は先生が生徒を注意したり、ふざけている生徒を叱るのを見たことがありません。廊下で先生たちは丁寧に挨拶され、授業の始まりと終わりにはお辞儀をします。部活動のコーチたちはさらに深いお辞儀で迎えられるのを、いくつかの部活動を見学している時に見ました。その他にも、昼食後の歯磨きや、学校内で靴が許されていないためスリッパを履くこと、授業が変わるときに生徒が教室を移動するのではなく、教師が教室を移動することなど、いくつか異なる点がありました。

みんなとの社会的なやり取りに関しては、友達を作るのがとても簡単だと感じました。私は留学生という特別な立場にありますが、それに関係なく、みんなとても優しく接してくれました。特に、鹿屋で行われた冬祭りで、ホストシスターのクラスメートたちに会ったことを覚えています。彼女たちは私に会えてとても興奮していて、抱きしめてくれたり、写真を撮ろうとしたり、ついに会えてとても喜んでくれていました。とても素晴らしかったです！実際、それはアメリカのティーンエイジャーたちから受けるようなエネルギーでした。もしかしたら、どこでも、友達に囲まれるとティーンエイジャーはこういうふうになるのかなと思いました。その興奮は本当に唯一無二のものでした！態度だけでなく、活動も非常に似ていました。ショッピングモールはアメリカのティーンエイジャーと同じように、遊ぶ場所の一つでした！

西洋では、日本人は恥ずかしがり屋だというイメージが最も一般的だと思います。喜びを表に出して表現している人々に出会った経験は一つだけではありません。正直に言うと、このイメージは間違っていると思います。『恥ずかしがり屋』は本当のところ適切な言葉ではありません。私はむしろ、日本人は尊敬を大切にしていると言いたいです。ただ、確かに内向的な同級生も一定数いましたが、それはどこでも出会う内向的な人たちと何ら変わりません。私も多くの友達を作りましたが、その中には少し話すのに躊躇する子もいました。それでも、私たちは他の方法で交流しました！例えば、私が一番好きなテレビ番組のキャラクターを使い捨てカイロに描いてくれた女の子がいたのは、本当に優しい出来事でした！私たちは言葉を交わしませんでしたでしたが、私は彼女を友達だと思っています。今まで出会った友達、特に心から親しい関係を築いた友達たちとのことを振り返ると、また会える日を心から待ち望んでいます。ある学校の最終日には、同級生が私のために泣いてくれたのを覚えています。そしてもちろん、私も泣きました。最終的には数人が涙を流しました。でも、その悲しさとは裏腹に、こんなに短い時間でこんなにも親しくなることができたことがどれほど素晴らしいことかを実感しました。毎日、みんなと楽しくて可愛いやり取りをしていたので、笑わない日は一日もありませんでした。

学校外にはまったく異なる世界があり、そこでも意味深い経験をすることができました。私は着物を着て、神社を訪れることができました。それは本当に美しい時間でした。この日本の美しさを学べることにとても感謝しています。素晴らしいホストシスターが、神社で行うべき伝統を一つ一つ教えてくれて、なぜそれをするのかについても背景を説明してくれました。私は教育の成功を祈ってお守りを購入しましたが、それがうまくいってくれることを願っています！

鹿児島への旅でたくさんのお話を学びましたが、決して忘れない教訓は、「何事にも躊躇せずに挑戦すること」、「好奇心を表現すること」、そして「たとえ難しそうでもコミュニケーションを取る」ことです。たとえそれが、生の鶏刺身のように奇妙に思えるものであっても、それは実際にとても美味しかったです！私の日本語は完璧ではなく、正直言っておそらく完璧にはならないでしょうが、それを理由に挑戦することを諦めていたら、今の素晴らしい友達や知識、そして貴重な思い出を持つことはなかったでしょう。それらは今後も私の心の中で大切に抱き続け、永遠に忘れることはありません。